

東部支部巡検会報告：伊豆半島ジオパーク 下田～南伊豆 海底火山を旅する

著者	増島 淳
雑誌名	静岡地学
巻	107
ページ	15-16
発行年	2013-06-23
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024611

東部支部巡検会報告

—伊豆半島ジオパーク 下田～南伊豆 海底火山を旅する—

増 島 淳

1. はじめに

春休みの真ん中、2013年3月30日(土) 風はやや強いが好天の一日、伊豆ジオパーク推進協議会の鈴木雄介氏に講師をお願いし、貸し切りバスによる「伊豆半島ジオパーク・下田～南伊豆」のジオサイト見学会を実施した。参加者は会員15名・会員家族3名(参加費2,000円)、一般26名(3,000円)、合計44名(女性11名)である。

当初は会員中心のバスツアーを予定したが、希望者がバスの定員に満たないため、東部支部で継続実施している「ジオツアー三島」参加者等に参加を呼びかけたところ、定員を超える希望者が集まり数名の方には次回参加をお願いした。

7時50分三島駅前で、浜田会員の紹介でチャーターした観光バスに乗車した。往路は山本玄珠会員に伊豆の地質についての全般的な説明を受けながら一路南下した。

10時過ぎに下田駅で鈴木雄介氏や伊東方面からの参加者と合流し、見学会が始まった。

2. 見学地

(1) 弓ヶ浜：青野川河口に発達する全長1,200mの美しい「砂嘴」の成因や、周辺の地形・地質について説明を受けた。

(2) 逢ヶ浜(おうのはま)：弓ヶ浜から10分ほど海岸伝いに歩き、海底を流れた溶岩や水底土石流の地層を貫く岩脈に発達する仏像の光背様の「放射状節理」を観察し、参加者はこれを背に記念写真を撮った。

弓ヶ浜に戻り「青木サザエ店」で昼食を摂ったのち、最近発足した伊豆ジオパークを盛り上げる「ジオガシ旅行団」の出張販売で「地図付き・ジオ菓子」を希望者は購入した。「爪木崎の柱状節理・ココアクッキー」「弁天島の斜交層理・パイ」など8種類あり、少々高価だが意表をつく商品で、

沼津市教育委員会



図1. 見学地略図.

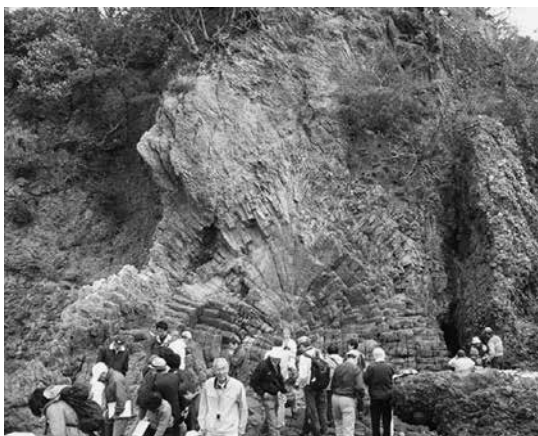


図2. 逢ヶ浜の放射状節理.

珍しさも手伝ったのか好評な売れ行きだった。なお、女子販売員2名は一日中ツアーのサポートをしてくださった。

(3) 田牛のサンドスキー場・竜宮窟：海岸に吹き付ける風による傾斜角30°幅100mの「砂堆」と、直径40mの天窓が開く凝灰岩の「海食洞」内部を観察した。足下には「ポットホール」が散在している。折からの強風で、全員が砂堆の成因に納得できた。

(4) 恵比寿島：須崎漁港の西に位置し、3回の隆起(600, 1,000, 1,500年前)で出来た島。「千畳敷」の磯場が周囲を取り囲み、海食崖では海底土石流、斜交層理、タフォニ(塩類風化穴)などを観察した。

(5) 爪木崎：須崎半島の付け根に位置する御用邸の広さに感心しているうちに目的地に着く。半島は何回も隆起しているため、複数の海岸段丘が発達している。海岸の岩場は地層に沿って貫入した「シル」に発達する柱状節理「俵磯」(県指定天然記念物)からなり、足下に注意しながら柱状節理の上を移動し観察。迫力のある地形であった。

(6) 柿崎弁天島：幕末の志士「吉田松陰」がアメリカ密航を企てた舞台として有名。島の外周の散策路沿いの海食崖には「斜交層理」が続き県の天然記念物に指定されている。層理の方向から海流の流動方向を推定する。足下の貝やフジツボの化石、生痕化石なども観察し、数百万年前の現地の様子を、それぞれの頭の中で復元した。

17時に下田駅で鈴木雄介講師らと別れ、19時半に三島駅に無事到着し、次回の企画参加を楽しみに解散した。



図3. 竜宮窟内部。



図4. 爪木崎，海底土石流と斜交層理。

3. おわりに

三島から下田まで2時間半の行程でバス乗車時間の長いツアーだったが、南伊豆の「白浜層群」に見られる地形・地質を堪能でき、一般参加者にもわかりやすい鈴木講師の説明で有意義な一日だった。参加者からは「次回の実施はいつか？」等の催促をうけた。

参加会員(受付順)：齋藤朗三、斉藤俊仁、増島 淳、山本安信、川平裕昭、浜田 俊、杉山春来、渡辺 忍(中部)、新聞規生、北垣俊明、荻原美広、春原健壺、山本玄珠、伊藤彰彦、三田義和、参加者の門矢光恵様より短歌をいただきましたので、一点紹介し、終わりとします。

「俵磯 岩場を越えて 見たものは ひしめき並ぶ 柱状節理」